

資料2 津波避難施設の事例

1 津波避難シェルター	資 2- 1
2 津波避難センター	資 2- 2
3 津波避難タワー	資 2- 3
4 津波避難ビル	資 2- 9
5 津波避難広場	資 2-15
6 津波避難路	資 2-16

注：本資料に転載した記事・写真は、著作権者の転載許可を得ております。

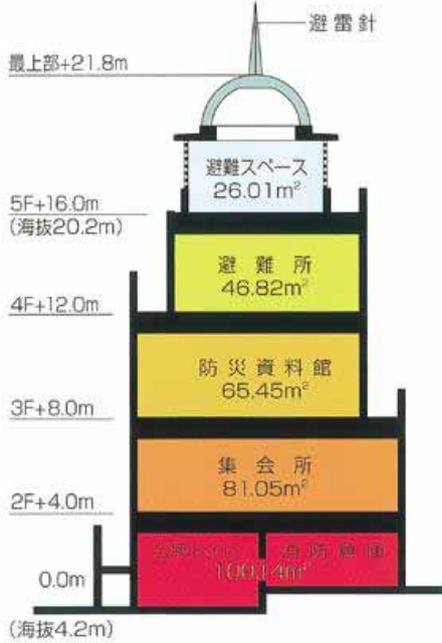
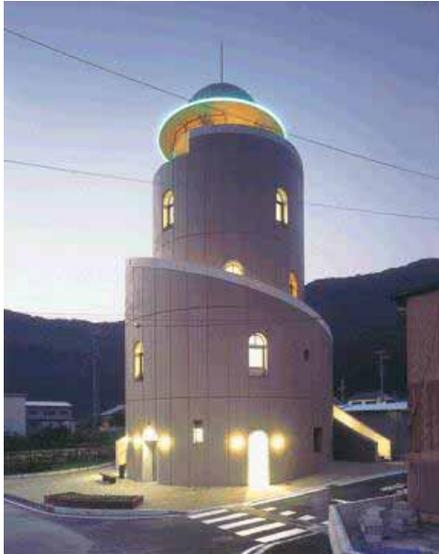
津波からの避難施設の事例【津波避難シェルター】

設置場所	高知県
施設区分	津波避難シェルター（地下式、潜水式）
名称	津波避難シェルター（地下式、潜水式） 構想段階
施設概要	
整備地域の概況	<p>内閣府の「南海トラフの巨大地震モデル検討会」で公表された、高知県の津波想定高さは大きく、県として二重三重の対策が必要。</p> <p>海岸堤防の耐震対策、粘り強い構造への補強、高規格道路などハード、ソフトを組み合わせた様々な対策を講じる。</p> <p>こうした対策を講じて、なお安全性の確保が厳しい箇所については、抜本的な対策として 高台への移転にあわせて、地下シェルターを検討するとともに、事前復興対策について、国家的課題として取り組むことが必要であることを政策提言している。</p>
管理主体	
管理方法	

津波からの避難施設の事例【津波避難センター】

設置場所	高知県 高知市 種崎
施設区分	津波避難センター
名称	高知市種崎地区津波避難センター
施設概要	 <p>種崎地区 津波避難センター</p> <p>津波避難センター位置図</p>  <p>津波避難センター全景 (種崎地区避難センターリーフレット、高知市)</p>  <p>津波避難センター案内板 (2014年11月26日、日建連撮影)</p>
整備地域の概況	<p>種崎地区津波避難センターは、内閣府の地域防災拠点施設整備モデル事業を活用し、2009年4月に完成した地域の防災拠点で、平面形状が楕円形の津波に強い津波避難ビルである。</p> <p>1階は、防災展示スペースになっており南海地震等に関するパネルが展示されている。2階は、給湯室と防災学習室が2部屋ある。3階は、避難スペースとなっており、屋上避難スペースと併せた約400m²で約800人が避難可能である。</p>
管理主体	高知市
管理方法	地域に依頼

津波からの避難施設の事例【津波避難タワー】

設置場所	三重県 度会郡 大紀町錦
施設区分	津波避難タワー
名称	錦タワー
施設概要	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div> <div style="margin-top: 10px;">  <p style="text-align: center;">錦タワー3F 防災資料館</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>構造 鉄筋コンクリート構造の5階建、高さは21.8m 昭和東南海地震の波高6.5mを基準 最大500人が施設内に避難することができる 工夫 津波の際に避難・救助しやすいよう建物の外側のらせん階段が設けられている。平時の際には、1階が消防倉庫、2階が地区住民の集会所、3階には東南海地震津波被災時等の写真、防災資料の展示を行い、防災意識啓発の提供の場として整備されている</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>事業費 138, 548千円 (内訳) 県補助金 20, 640千円 起債(地域総合整備事業債) 116, 900千円 一般財源 1, 008千円</p> </div>
整備地域の概況	<p>この地域は、昭和の東南海地震の大津波においては、全壊家屋 447 戸、半壊家屋 235 戸、船舶被害 101 隻、64 名もの尊い生命までもが奪われる経験をした。平成 7 年に、住民の 10 人に 1 人が委員となる防災対策実行委員会を組織し、実践的な防災対策の計画及び実施に取り組み、津波が来襲の際、避難路の終点に避難地と避難休憩施設の整備を行った。また、河川が取り囲むようにして流れ、高台への避難コースの確保が難しい地域に、人工的避難地として緊急避難塔（錦タワー）の整備を行った。地震災害に対する避難所を利用した住民避難訓練は毎年 9 年と 12 月に実施している。他にも小中学生による下校時避難訓練、海上船舶避難訓練も実施している。</p> <p style="font-size: small;">出典：消防防災博物館、調べる、防災まちづくり、【消防科学総合センター理事長賞】津波災害に強いまちづくり（錦タワー）(web開設・運営、一般財団法人消防科学総合センター)</p>
管理主体	三重県 度会郡 大紀町
管理方法	

津波からの避難施設の事例【津波避難タワー】

設置場所	掛川市菊浜地区、今沢地区
施設区分	津波避難タワー (PC 製)
名 称	津波避難タワー
施設概要	
整備地域の概況	<p>静岡県掛川市で 27 日、南海トラフ巨大地震に備えた津波避難タワー 2 棟が完成を迎える。この津波避難タワー、全国で建設が進む他のタワーとは違う点がある。鉄骨造ではなく、工場生産したプレストレスト・コンクリート(PC)で造られているのだ。PC製の津波避難タワーは“国内初”。PC建設業協会も全国の自治体に提案を進めていた。3月中旬、建設現場取材した。</p> <p>完成した 2 棟のタワーは PC による人工地盤型で、同市の菊浜、今沢の両地区に建設された。鉄骨製の階段を備え、避難スペースはともに海拔 15m 以上に設定している。両タワーの PC 製品供給と PC 工事全般は、ピーエス三菱が担当した。菊浜地区の津波避難タワーは、避難スペースが 16.7m×12m、地表面からの高さが 10.5m で収容人数は最大 600 人。収容人数 300 人の今沢地区のタワーより大きい。</p> <p>東日本大震災による巨大津波被害では、鉄橋に比べ PC 橋の丈夫さが際立つ結果となった。一方、現在は鋼材価格が上昇傾向にあるため、初期投資額の差も縮まりつつある。巨大地震が何年後に起こるか予測できない以上、ライフサイクルコストの視点も欠かせない。</p> <p>PC 建設業協会は、今回の初採用について、「PC 構造の強靱性、施工性、経済性、地元企業の活用などを総合的に判断いただいたと考えている。今後も各自治体が構造選定する際に、PC 構造を比較のテーブルにあげていただくことを期待している」とし、今後の普及拡大に期待を寄せる。</p> <p>完成した津波避難タワーは、平常時は公民館の駐車場や朝市の会場としての利用などが見込まれている。「地域住民が安心感を持って生活できる環境が整うことは、地域の活性化にもつながる。平常時は地域資源として日常的に活用してほしい」(浦野主幹)。</p> <p style="text-align: right;">(建設通信新聞 HP)</p>
管理主体	掛川市危機管理課
管理方法	

津波からの避難施設の事例【津波避難タワー】

設置場所	和歌山県田辺市文里一丁目 736-251
施設区分	津波避難タワー
名称	文里（もり）地区津波避難用タワー
施設概要	<div data-bbox="523 405 1267 1037" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="523 1055 1267 1267" data-label="Text"> <p>構造・規模：鉄骨造・デッキ部高さ7.8m、延床面積45m² 収容人数：約100名 工期：H20.1～H20.3 事業費：28,400千円</p> </div> <p style="text-align: right;">写真、情報源：田辺市 HP</p>
整備地域の概況	<p>田辺市は、昭和 21 年 12 月 21 日に発生した昭和南海地震に伴う津波の来襲により大きな被害を受けた経緯があります。</p> <p>また、和歌山県では、近い将来、発生が懸念されている東海・東南海・南海地震が同時発生した場合、田辺市の文里地区沿岸地域に対し、巨大津波の第 1 波が 25 分という極めて早い時間で押し寄せ、また、最大津波浸水深は 5 メートル以上になると予測しています。</p> <p>こうしたなかで、田辺市では、文里地区の沿岸地域を津波の到達時間までに安全な高台へ避難することが困難な地域の一つとして抽出し、和歌山県は、平成 19 年 6 月に津波避難困難地域として公表しました。</p> <p>文里地区津波避難タワーは、文里地区における津波避難困難地域にお住まいの方々が、津波発生時に緊急一時避難場所としてご活用いただくための施設として平成 20 年 3 月に建設しました。</p> <p style="text-align: right;">文書：田辺市 HP</p>
管理主体	田辺市 防災対策課
管理方法	

津波からの避難施設の事例【津波避難タワー】

設置場所	神奈川県藤沢市鵜沼海岸（県立湘南海岸公園）
施設区分	津波避難タワー
名称	未定
施設概要	  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>構造・規模：鉄骨造・デッキ部高さ 5m 延床面積50m² 収容人数：約100名 工期：H24.6末完成予定 事業費：35,000千円</p> </div> <p style="text-align: right;">（神奈川県 HP）</p>
整備地域の概況	利用者の多い県立都市公園において、県が率先して沿岸市町への先導的モデルともなる津波避難タワーを設置するとともに、その整備及び維持管理に関する情報を沿岸市町に提供し、津波避難タワーの設置促進を図る
管理主体	神奈川県 安全防災局 危機管理部 災害対策課
管理方法	平時は展望台として一般に開放する予定

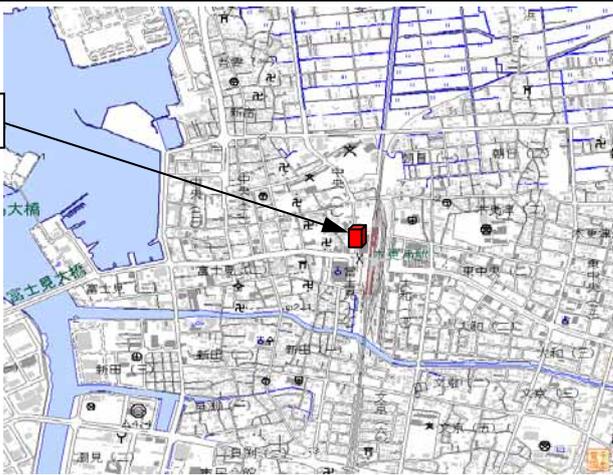
津波からの避難施設の事例【津波避難タワー】

設置場所	高知県 奈半利町 東浜
施設区分	津波避難タワー
名称	奈半利町 1号津波避難タワー
施設概要	 <p>1号津波避難タワー位置図</p>  <p>1号津波避難タワー全景 (2013年11月26日、日建連撮影)</p>
整備地域の概況	<p>奈半利町1号津波避難タワーは、東浜地区の浜辺神社前公園内に、工事費4,074万円をかけ2012年3月に完成した津波避難施設である。同地区は、海岸に接した地形条件にあり、付近に津波避難場所となる山や高台等がなかったため、津波避難タワーが整備された。タワーは、高さ8mの鉄筋コンクリート造で、建設場所の海拔7m、一時避難場所の海拔15mで、国から示された最高津波高12.6mより高い位置となっている。また、今後さらに3mの嵩上げができる設計としている。避難場所の面積96m²で収容人数150人、避難時に必要な機材を保管する物置や簡易トイレ、ソーラー式照明灯を完備し、また、入り口から避難場所まで車イスで避難できるようスロープ式通路としている。</p> <p>(出典：広報「なはり」282号、奈半利町、2012年5月)</p>
管理主体	奈半利町
管理方法	

津波からの避難施設の事例【津波避難タワー】

設置場所	高知県 奈半利町 生木
施設区分	津波避難タワー
名称	奈半利町 2号津波避難タワー
施設概要	 <p>2号津波避難タワー位置図</p>  <p>2号津波避難タワー全景 (2013年11月26日、日建連撮影)</p>
整備地域の概況	<p>奈半利町 2号津波避難タワーは、生木地区の奈半利中央公園（石の公園）内に、工事費 4,935 万円をかけ 2012 年 11 月に完成した津波避難施設である。同地区には、奈半利保育所・幼稚園があり、地域住民はもとより、災害弱者である園児等の避難場所を確保するために、施設敷地内から 100m 以内に整備されたものである。津波避難タワーは、高さ 10.5m の鉄筋コンクリート造で、建設場所の海拔 4.5m、一時避難場所の海拔 15m であり、国から示された最高津波高より高い位置となっている。避難場所の面積 96m² で収容人数 150 人、避難時に必要な機材を保管する物置や簡易トイレ、ソーラー式照明灯を完備し、入り口から避難場所まで車イスで避難できるようスロープ式通路としている。</p> <p>(出典：広報「なはり」286 号、奈半利町、2013 年 1 月)</p>
管理主体	奈半利町
管理方法	

津波からの避難施設の事例【津波避難ビル】

施設の概要（必須条件：鉄筋または鉄骨造、3階建以上）			
所在地	千葉県木更津市中央 1-1-1		
名称	木更津駅前西口駐車場		
種別	既設	構造	鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄骨造
所有者	木更津市	耐震性	—
階数	地上4階	用途	駐車場
整備・計画地域の概況			
避難可能人数	約 3,000 名		
使用可能場所	3階・4階		
使用条件	<ul style="list-style-type: none"> 津波警報及び大津波警報が発令された時、緊急的に一時避難することが 24 時間可能 施設の使用料は無料 		
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 沿岸部付近及び平野部を対象に選定 駐車場の 3 階・4 階部分を津波避難場所として使用 		
位置図			
外観			
理主体・管理方法等			
管理主体	所有者（木更津市）		
管理方法等	所有者（木更津市）が管理		
その他	出典等：木更津市ホームページ		

津波からの避難施設の事例【津波避難ビル】

施設の概要（必須条件：新耐震基準、鉄筋コンクリート造または鉄骨鉄筋コンクリート造を基本、3階建以上）			
所在地	高知県高知市本町 5-1-45		
名称	高知市第二庁舎		
種別	既設	構造	鉄筋コンクリート造
所有者	高知市	耐震性	新耐震基準
階数	地上3階	用途	市庁舎
整備・計画地域の概況			
避難可能人数	約 882 名		
使用可能場所	屋上		
使用条件	<ul style="list-style-type: none"> 津波が発生し、又は発生するおそれがあるときから、施設所有者及び地域住民等が津波避難ビルとしての役割の終了を確認した時までとする。 施設の使用料は無料。 		
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 平成17年度に高知県が実施した「高知県津波防災アセスメント補完調査」で発表された津波浸水予測区域内およびこの区域付近を対象に選定 市庁舎の屋上を津波避難場所として使用 		
位置図			
外観			
管理主体・管理方法等			
管理主体	所有者（高知市）		
管理方法等	所有者（高知市）		
その他	出典等：高知市ホームページ		

津波からの避難施設の事例【避難ビル】

施設の概要（必須条件： ） 【一時避難施設】																																	
所在地	東京都江東区大島 4-1																																
名称	大島四丁目団地																																
種別	既設（昭和 43 年度）	構造	鉄筋コンクリート造																														
所有者	独立行政法人都市再生機構	耐震性																															
階数	地上 8～14 階（7 棟）	用途	共同住宅																														
整備・計画地域の概況																																	
避難可能人数	大規模水害時；約 17,000 名／津波時；約 13,000 名																																
使用可能場所	大規模水害時；3 階（地上高約 6m）以上／津波時；5 階（地上高約 12m）以上の共用階段・廊下（屋上や室内は除外）																																
使用条件	<p>1. 大規模水害時・・・区が避難勧告等を発令してから、その施設周辺の水害が収束するまで（発生から概ね 3 日間）。</p> <p>2. 津波時・・・東京湾内湾に大津波警報が発表されてから、警報解除等により津波のおそれなくなったときまで。</p> <p>津波の場合、津波警報や津波注意報が発表されても、一時避難施設は提供されない。</p>																																
特徴	<p>『東京湾はその形状から大きな津波が起こりにくく、歴史的にも東京には津波による大きな被害はありません。また、高潮対策として防潮堤等が東京湾及び河川流域に整備されているため、区内に大きな津波が押し寄せる心配はないと言われています。しかし、津波に対する区民の不安が大きいことや、200 年に 1 回の大雨により荒川がはん濫した場合等を想定した津波以外の大規模水害にも対策を強化する必要があることから、区は下記の企業と「津波等の水害時における一時避難施設としての使用に関する安心協定」を締結し、水害時における一時避難施設を提供しています。』 東日本大震災以降（H24.03.08）に江東区との協定を締結</p>																																
外観等	<p>江東区が協定を締結している集合住宅</p> 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>住宅名等</th> <th>一時避難スペース</th> <th>避難者収容人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>UR大島四丁目団地 (大島4-1)</td> <td>3階以上の共用部分(屋上を除く)</td> <td>約17,000人</td> </tr> <tr> <td>UR大島六丁目団地 (大島6-1)</td> <td>同上</td> <td>約19,000人</td> </tr> <tr> <td>UR北砂五丁目団地 (北砂5-20)</td> <td>同上</td> <td>約15,000人</td> </tr> <tr> <td>亀戸二丁目団地(6～9号棟:分譲棟) (亀戸2-6)</td> <td>同上</td> <td>約4,000人</td> </tr> <tr> <td>UR亀戸二丁目団地(1～5号棟:賃貸棟) (亀戸2-6)</td> <td>同上</td> <td>約3,900人</td> </tr> <tr> <td>URSフィコート大島 (大島6-14)</td> <td>同上</td> <td>約3,100人</td> </tr> <tr> <td>UR大島七丁目団地 (大島7-28)</td> <td>同上</td> <td>約2,700人</td> </tr> <tr> <td>UR東大島駅前ハイツ (大島7-39)</td> <td>同上</td> <td>約3,800人</td> </tr> <tr> <td>区営高橋一丁目アパート (高橋1-20)</td> <td>同上</td> <td>約1,100人</td> </tr> </tbody> </table>		住宅名等	一時避難スペース	避難者収容人数	UR大島四丁目団地 (大島4-1)	3階以上の共用部分(屋上を除く)	約17,000人	UR大島六丁目団地 (大島6-1)	同上	約19,000人	UR北砂五丁目団地 (北砂5-20)	同上	約15,000人	亀戸二丁目団地(6～9号棟:分譲棟) (亀戸2-6)	同上	約4,000人	UR亀戸二丁目団地(1～5号棟:賃貸棟) (亀戸2-6)	同上	約3,900人	URSフィコート大島 (大島6-14)	同上	約3,100人	UR大島七丁目団地 (大島7-28)	同上	約2,700人	UR東大島駅前ハイツ (大島7-39)	同上	約3,800人	区営高橋一丁目アパート (高橋1-20)	同上	約1,100人
住宅名等	一時避難スペース	避難者収容人数																															
UR大島四丁目団地 (大島4-1)	3階以上の共用部分(屋上を除く)	約17,000人																															
UR大島六丁目団地 (大島6-1)	同上	約19,000人																															
UR北砂五丁目団地 (北砂5-20)	同上	約15,000人																															
亀戸二丁目団地(6～9号棟:分譲棟) (亀戸2-6)	同上	約4,000人																															
UR亀戸二丁目団地(1～5号棟:賃貸棟) (亀戸2-6)	同上	約3,900人																															
URSフィコート大島 (大島6-14)	同上	約3,100人																															
UR大島七丁目団地 (大島7-28)	同上	約2,700人																															
UR東大島駅前ハイツ (大島7-39)	同上	約3,800人																															
区営高橋一丁目アパート (高橋1-20)	同上	約1,100人																															
管理主体・管理方法等																																	
管理主体	所有者（独立行政法人都市再生機構）																																
管理方法等	所有者（独立行政法人都市再生機構）と江東区の間で「津波等の水害時における一時避難施設としての使用に関する安心協定」を締結。施設居住者（自治会）と江東区の間で「津波等の水害時における隣保協同に関する覚書」を締結																																
その他	出典：江東区 HP																																

津波からの避難施設の事例【避難ビル】

<p>施設の概要</p> <p>【必須条件】（「千葉市における津波避難ビル指定について」より）</p> <p>3階又は地上高4m以上に床などの一時避難場所を確保でき、一定の地震耐力が見込まれる建物（基準としては、新耐震基準に適合しているか、旧耐震基準の場合はIs値0.6以上）。</p> <p>津波は地震により引き起こされるため、地震に耐えられない建物は指定できない。津波の災害特性と津波避難ビルの利用方法から、避難者の滞留場所が確保可能であれば立体駐車場等の建築物でも問題ない。</p>																																																																																																																																																																																																																																																			
所在地	千葉県千葉市	名称	—																																																																																																																																																																																																																																																
種別	—	構造	—																																																																																																																																																																																																																																																
所有者	千葉市	耐震性	—																																																																																																																																																																																																																																																
階数	—	用途	学校、競技場																																																																																																																																																																																																																																																
整備・計画地域の概況																																																																																																																																																																																																																																																			
避難可能人数	(HPからは不明)																																																																																																																																																																																																																																																		
使用可能場所	・JR総武線・JR内房線より沿岸部。																																																																																																																																																																																																																																																		
使用条件	<p>津波避難ビルは、いつ発生するか分からない津波から市民の生命の安全を図るため、一時的に緊急避難する場所です。津波の恐れがない地震や、火事、台風などの増水の際は、別に指定している「避難所・避難場所」などに避難を行います。</p> <p>千葉市沿岸を含む「東京湾内湾」に対し、気象庁から「津波警報」、「大津波警報」が発表されたときに、警報が発表されている間の一時的な避難場所として津波避難ビルを使用します。「津波注意報（1m未満の津波到達予測）」の場合は使用いたしません。</p> <p>津波避難ビルは、原則として建築物の3階又は地上高4m以上の場所のうち、あらかじめ指定した範囲においてのみ、避難者を受け入れます。</p> <p>指定の範囲については、津波避難ビルの入口に掲示してあります。</p> <p>指定した範囲における施設や設備（洗面所など）は使用できますが、あくまでも一時避難施設なので、市職員の派遣や避難物資などの備蓄はありません。</p> <p>(千葉市総務局危機管理課 HP『津波避難ビルについて』より引用)</p>																																																																																																																																																																																																																																																		
特徴	・東日本大震災以降（平成24年3月29日）に公表（ほとんどが公立学校）																																																																																																																																																																																																																																																		
指定施設 (H25.4月現在)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区</th> <th>施設名</th> <th>所在</th> <th>階高(m)</th> <th>区</th> <th>施設名</th> <th>所在</th> <th>階高(m)</th> <th>区</th> <th>施設名</th> <th>所在</th> <th>階高(m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中央</td> <td>宝浜西小学校</td> <td>塩田町316-1</td> <td>2.1</td> <td>美浜</td> <td>田嶋田第一小学校</td> <td>磯辺2-2-1</td> <td>3.8</td> <td>美浜</td> <td>田嶋田第一中学校</td> <td>磯辺2-1-1</td> <td>3.8</td> </tr> <tr> <td>中央</td> <td>高川小学校</td> <td>高川町1-205</td> <td>2.9</td> <td>美浜</td> <td>田嶋田第二小学校</td> <td>磯辺2-17-1</td> <td>3.9</td> <td>美浜</td> <td>磯辺中学校</td> <td>磯辺1-30-1</td> <td>3.5</td> </tr> <tr> <td>中央</td> <td>新塚小学校</td> <td>新塚町2-13-1</td> <td>3.0</td> <td>美浜</td> <td>磯辺第三小学校</td> <td>磯辺1-29-1</td> <td>3.9</td> <td>美浜</td> <td>稲毛東校(付属中)</td> <td>高浜3-1-1</td> <td>3.9</td> </tr> <tr> <td>中央</td> <td>藤枝小学校</td> <td>寺井3-15-32</td> <td>2.8</td> <td>美浜</td> <td>磯辺小学校</td> <td>磯辺4-16-1</td> <td>4.1</td> <td>美浜</td> <td>稲毛中学校</td> <td>稲毛南町2-3-3</td> <td>3.6</td> </tr> <tr> <td>中央</td> <td>豊戸小学校</td> <td>豊戸2-11-1</td> <td>32.1</td> <td>美浜</td> <td>稲毛第二小学校</td> <td>稲毛南町5-7-1</td> <td>3.4</td> <td>美浜</td> <td>打瀬中学校</td> <td>打瀬2-12-1</td> <td>4.2</td> </tr> <tr> <td>中央</td> <td>新塚中学校</td> <td>新塚町1-72</td> <td>2.3</td> <td>美浜</td> <td>稲毛第一小学校</td> <td>稲毛南町2-3-2</td> <td>3.3</td> <td>美浜</td> <td>幸町第一中学校</td> <td>幸町2-12-7</td> <td>3.3</td> </tr> <tr> <td>中央</td> <td>国立志津高校</td> <td>塩田町372</td> <td>2.1</td> <td>美浜</td> <td>幸町第二小学校</td> <td>幸町2-9-4</td> <td>3.5</td> <td>美浜</td> <td>幸町第二中学校</td> <td>幸町1-12-2</td> <td>3.3</td> </tr> <tr> <td>中央</td> <td>蘇我駅前市民プラザ</td> <td>寺井1-14-43</td> <td>3.4</td> <td>美浜</td> <td>幸町第三小学校</td> <td>幸町2-9-4</td> <td>3.4</td> <td>美浜</td> <td>高浜第一中学校</td> <td>高浜2-3-13</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td>中央</td> <td>フクダ電子アリーナ</td> <td>川崎町1-20</td> <td>3.3</td> <td>美浜</td> <td>幸町第四小学校</td> <td>幸町1-10-1</td> <td>3.1</td> <td>美浜</td> <td>高浜第二中学校</td> <td>高浜4-4-5</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td>中央</td> <td>千葉職業能力開発短期大学校</td> <td>磯辺町2-25</td> <td>3.1</td> <td>美浜</td> <td>田嶋田第四小学校</td> <td>幸町2-12-12</td> <td>3.7</td> <td>美浜</td> <td>高浜第三中学校</td> <td>高浜4-8-1</td> <td>3.6</td> </tr> <tr> <td>中央</td> <td>千歳ポートスクエア</td> <td>磯辺町1-35</td> <td>2.2</td> <td>美浜</td> <td>高浜南小学校</td> <td>高浜2-12-20</td> <td>3.4</td> <td>美浜</td> <td>稲毛中学校</td> <td>稲毛南町2-5-1</td> <td>3.5</td> </tr> <tr> <td>花見川</td> <td>西谷小学校</td> <td>藤原町2-22-6</td> <td>7.5</td> <td>美浜</td> <td>高浜第三小学校</td> <td>高浜3-15-11</td> <td>3.2</td> <td>美浜</td> <td>真砂中学校</td> <td>真砂3-18-2</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td>花見川</td> <td>藤原小学校</td> <td>藤原町4-781</td> <td>3.8</td> <td>美浜</td> <td>高浜第四小学校</td> <td>高浜1-15-1</td> <td>3.3</td> <td>美浜</td> <td>国立磯辺高校</td> <td>磯辺2-7-1</td> <td>3.3</td> </tr> <tr> <td>花見川</td> <td>藤原南小学校</td> <td>藤原町3-7718</td> <td>3.1</td> <td>美浜</td> <td>高浜第一小学校</td> <td>高浜1-4-1</td> <td>3.7</td> <td>美浜</td> <td>国立千葉西高校</td> <td>磯辺3-30-3</td> <td>4.2</td> </tr> <tr> <td>稲毛</td> <td>稲毛小学校</td> <td>稲毛町5-535</td> <td>3.3</td> <td>美浜</td> <td>高浜南小学校</td> <td>高浜4-8-2</td> <td>3.2</td> <td>美浜</td> <td>浜田磯見川(国吹)</td> <td>真砂4-17-1</td> <td>3.4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>美浜</td> <td>藤原南小学校</td> <td>藤原町2-9-1</td> <td>3.6</td> <td>美浜</td> <td>国立稲毛総合高校</td> <td>高浜3-1-6</td> <td>5.7</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>美浜</td> <td>西谷南小学校</td> <td>西谷町2-13-1</td> <td>3.0</td> <td>美浜</td> <td>新栄南理工</td> <td>新栄22-1</td> <td>2.9</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>美浜</td> <td>西谷西小学校</td> <td>西谷4-5-1</td> <td>3.6</td> <td>美浜</td> <td>稲毛千葉北</td> <td>幸町1-26-5</td> <td>3.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>美浜</td> <td>西谷東小学校</td> <td>西谷2-12-15</td> <td>3.4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			区	施設名	所在	階高(m)	区	施設名	所在	階高(m)	区	施設名	所在	階高(m)	中央	宝浜西小学校	塩田町316-1	2.1	美浜	田嶋田第一小学校	磯辺2-2-1	3.8	美浜	田嶋田第一中学校	磯辺2-1-1	3.8	中央	高川小学校	高川町1-205	2.9	美浜	田嶋田第二小学校	磯辺2-17-1	3.9	美浜	磯辺中学校	磯辺1-30-1	3.5	中央	新塚小学校	新塚町2-13-1	3.0	美浜	磯辺第三小学校	磯辺1-29-1	3.9	美浜	稲毛東校(付属中)	高浜3-1-1	3.9	中央	藤枝小学校	寺井3-15-32	2.8	美浜	磯辺小学校	磯辺4-16-1	4.1	美浜	稲毛中学校	稲毛南町2-3-3	3.6	中央	豊戸小学校	豊戸2-11-1	32.1	美浜	稲毛第二小学校	稲毛南町5-7-1	3.4	美浜	打瀬中学校	打瀬2-12-1	4.2	中央	新塚中学校	新塚町1-72	2.3	美浜	稲毛第一小学校	稲毛南町2-3-2	3.3	美浜	幸町第一中学校	幸町2-12-7	3.3	中央	国立志津高校	塩田町372	2.1	美浜	幸町第二小学校	幸町2-9-4	3.5	美浜	幸町第二中学校	幸町1-12-2	3.3	中央	蘇我駅前市民プラザ	寺井1-14-43	3.4	美浜	幸町第三小学校	幸町2-9-4	3.4	美浜	高浜第一中学校	高浜2-3-13	3.4	中央	フクダ電子アリーナ	川崎町1-20	3.3	美浜	幸町第四小学校	幸町1-10-1	3.1	美浜	高浜第二中学校	高浜4-4-5	3.4	中央	千葉職業能力開発短期大学校	磯辺町2-25	3.1	美浜	田嶋田第四小学校	幸町2-12-12	3.7	美浜	高浜第三中学校	高浜4-8-1	3.6	中央	千歳ポートスクエア	磯辺町1-35	2.2	美浜	高浜南小学校	高浜2-12-20	3.4	美浜	稲毛中学校	稲毛南町2-5-1	3.5	花見川	西谷小学校	藤原町2-22-6	7.5	美浜	高浜第三小学校	高浜3-15-11	3.2	美浜	真砂中学校	真砂3-18-2	3.0	花見川	藤原小学校	藤原町4-781	3.8	美浜	高浜第四小学校	高浜1-15-1	3.3	美浜	国立磯辺高校	磯辺2-7-1	3.3	花見川	藤原南小学校	藤原町3-7718	3.1	美浜	高浜第一小学校	高浜1-4-1	3.7	美浜	国立千葉西高校	磯辺3-30-3	4.2	稲毛	稲毛小学校	稲毛町5-535	3.3	美浜	高浜南小学校	高浜4-8-2	3.2	美浜	浜田磯見川(国吹)	真砂4-17-1	3.4					美浜	藤原南小学校	藤原町2-9-1	3.6	美浜	国立稲毛総合高校	高浜3-1-6	5.7					美浜	西谷南小学校	西谷町2-13-1	3.0	美浜	新栄南理工	新栄22-1	2.9					美浜	西谷西小学校	西谷4-5-1	3.6	美浜	稲毛千葉北	幸町1-26-5	3.0					美浜	西谷東小学校	西谷2-12-15	3.4				
区	施設名	所在	階高(m)	区	施設名	所在	階高(m)	区	施設名	所在	階高(m)																																																																																																																																																																																																																																								
中央	宝浜西小学校	塩田町316-1	2.1	美浜	田嶋田第一小学校	磯辺2-2-1	3.8	美浜	田嶋田第一中学校	磯辺2-1-1	3.8																																																																																																																																																																																																																																								
中央	高川小学校	高川町1-205	2.9	美浜	田嶋田第二小学校	磯辺2-17-1	3.9	美浜	磯辺中学校	磯辺1-30-1	3.5																																																																																																																																																																																																																																								
中央	新塚小学校	新塚町2-13-1	3.0	美浜	磯辺第三小学校	磯辺1-29-1	3.9	美浜	稲毛東校(付属中)	高浜3-1-1	3.9																																																																																																																																																																																																																																								
中央	藤枝小学校	寺井3-15-32	2.8	美浜	磯辺小学校	磯辺4-16-1	4.1	美浜	稲毛中学校	稲毛南町2-3-3	3.6																																																																																																																																																																																																																																								
中央	豊戸小学校	豊戸2-11-1	32.1	美浜	稲毛第二小学校	稲毛南町5-7-1	3.4	美浜	打瀬中学校	打瀬2-12-1	4.2																																																																																																																																																																																																																																								
中央	新塚中学校	新塚町1-72	2.3	美浜	稲毛第一小学校	稲毛南町2-3-2	3.3	美浜	幸町第一中学校	幸町2-12-7	3.3																																																																																																																																																																																																																																								
中央	国立志津高校	塩田町372	2.1	美浜	幸町第二小学校	幸町2-9-4	3.5	美浜	幸町第二中学校	幸町1-12-2	3.3																																																																																																																																																																																																																																								
中央	蘇我駅前市民プラザ	寺井1-14-43	3.4	美浜	幸町第三小学校	幸町2-9-4	3.4	美浜	高浜第一中学校	高浜2-3-13	3.4																																																																																																																																																																																																																																								
中央	フクダ電子アリーナ	川崎町1-20	3.3	美浜	幸町第四小学校	幸町1-10-1	3.1	美浜	高浜第二中学校	高浜4-4-5	3.4																																																																																																																																																																																																																																								
中央	千葉職業能力開発短期大学校	磯辺町2-25	3.1	美浜	田嶋田第四小学校	幸町2-12-12	3.7	美浜	高浜第三中学校	高浜4-8-1	3.6																																																																																																																																																																																																																																								
中央	千歳ポートスクエア	磯辺町1-35	2.2	美浜	高浜南小学校	高浜2-12-20	3.4	美浜	稲毛中学校	稲毛南町2-5-1	3.5																																																																																																																																																																																																																																								
花見川	西谷小学校	藤原町2-22-6	7.5	美浜	高浜第三小学校	高浜3-15-11	3.2	美浜	真砂中学校	真砂3-18-2	3.0																																																																																																																																																																																																																																								
花見川	藤原小学校	藤原町4-781	3.8	美浜	高浜第四小学校	高浜1-15-1	3.3	美浜	国立磯辺高校	磯辺2-7-1	3.3																																																																																																																																																																																																																																								
花見川	藤原南小学校	藤原町3-7718	3.1	美浜	高浜第一小学校	高浜1-4-1	3.7	美浜	国立千葉西高校	磯辺3-30-3	4.2																																																																																																																																																																																																																																								
稲毛	稲毛小学校	稲毛町5-535	3.3	美浜	高浜南小学校	高浜4-8-2	3.2	美浜	浜田磯見川(国吹)	真砂4-17-1	3.4																																																																																																																																																																																																																																								
				美浜	藤原南小学校	藤原町2-9-1	3.6	美浜	国立稲毛総合高校	高浜3-1-6	5.7																																																																																																																																																																																																																																								
				美浜	西谷南小学校	西谷町2-13-1	3.0	美浜	新栄南理工	新栄22-1	2.9																																																																																																																																																																																																																																								
				美浜	西谷西小学校	西谷4-5-1	3.6	美浜	稲毛千葉北	幸町1-26-5	3.0																																																																																																																																																																																																																																								
				美浜	西谷東小学校	西谷2-12-15	3.4																																																																																																																																																																																																																																												
管理主体	運用人	管理方法等	千葉市による指定																																																																																																																																																																																																																																																
その他	出典：千葉市HP																																																																																																																																																																																																																																																		

津波からの避難施設の事例【避難ビル】

施設の概要 【必須条件】 <ul style="list-style-type: none"> 津波避難施設対策エリア内（右図） 原則として RC 造または SRC 造（S 造については要相談） 新耐震基準をクリア 3 階以上 																																						
所在地	大阪市西区千代崎 3 丁目中 2 番 1 号外																																					
名称	京セラドーム大阪・周辺デッキ																																					
種別	既設（平成 9 年 3 月）	構造																																				
所有者	株式会社 大阪シティドーム	耐震性																																				
階数	地上 9 階・地下 1 階	用途	競技場、展示会場																																			
整備・計画地域の概況																																						
避難可能人数	約 9,000 名																																					
使用可能場所	京セラドーム大阪・周辺デッキ																																					
使用条件	・津波災害等の発生時またはそのおそれがある場合において、地域住民等の一時避難施設として、次の建物を「津波避難施設」とする（協定概要）。																																					
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災以降（平成 23 年 11 月 25 日）に協定締結。 観光客へもわかりやすい避難施設として各区に『拠点施設』を確保している。 																																					
概観等	 <p>写真：京セラドーム大阪 HP より</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">津波避難拠点施設</th> </tr> <tr> <th>施設名称</th> <th>所在地</th> <th>施設管理者</th> <th>収容人数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京セラドーム大阪・周辺デッキ</td> <td>西区千代崎3-2-1外</td> <td>オリックス不動産株式会社 株式会社アーバネックス 株式会社オージースポーツ 株式会社大阪シティドーム</td> <td>約9,000名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>OCAI(大阪シティエターミナルビル)</td> <td>浪速区湊町1-4-1</td> <td>株式会社湊町開発センター</td> <td>約2,500名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>イケア鶴浜</td> <td>大正区鶴町2-24-55</td> <td>イケア・ジャパン株式会社</td> <td>約28,000名</td> <td>※ただし、駐車状況等による。</td> </tr> <tr> <td>ホテルプラザオーサカ</td> <td>淀川区新北野1-9-15</td> <td>株式会社プラザオーサカ</td> <td>約2,600名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ニトリ西成店</td> <td>西成区出城1-2-37</td> <td>株式会社ニトリホールディングス</td> <td>約670名</td> <td>避難可能時間:店舗営業時間中</td> </tr> </tbody> </table>			津波避難拠点施設					施設名称	所在地	施設管理者	収容人数	備考	京セラドーム大阪・周辺デッキ	西区千代崎3-2-1外	オリックス不動産株式会社 株式会社アーバネックス 株式会社オージースポーツ 株式会社大阪シティドーム	約9,000名		OCAI(大阪シティエターミナルビル)	浪速区湊町1-4-1	株式会社湊町開発センター	約2,500名		イケア鶴浜	大正区鶴町2-24-55	イケア・ジャパン株式会社	約28,000名	※ただし、駐車状況等による。	ホテルプラザオーサカ	淀川区新北野1-9-15	株式会社プラザオーサカ	約2,600名		ニトリ西成店	西成区出城1-2-37	株式会社ニトリホールディングス	約670名	避難可能時間:店舗営業時間中
津波避難拠点施設																																						
施設名称	所在地	施設管理者	収容人数	備考																																		
京セラドーム大阪・周辺デッキ	西区千代崎3-2-1外	オリックス不動産株式会社 株式会社アーバネックス 株式会社オージースポーツ 株式会社大阪シティドーム	約9,000名																																			
OCAI(大阪シティエターミナルビル)	浪速区湊町1-4-1	株式会社湊町開発センター	約2,500名																																			
イケア鶴浜	大正区鶴町2-24-55	イケア・ジャパン株式会社	約28,000名	※ただし、駐車状況等による。																																		
ホテルプラザオーサカ	淀川区新北野1-9-15	株式会社プラザオーサカ	約2,600名																																			
ニトリ西成店	西成区出城1-2-37	株式会社ニトリホールディングス	約670名	避難可能時間:店舗営業時間中																																		
管理主体・管理方法等																																						
管理主体	株式会社 大阪シティドーム																																					
管理方法等	大阪市とオリックス不動産株式会社、株式会社アーバネックス（大阪ガスグループ不動産会社）、株式会社オージースポーツ（フィットネスクラブ運営会社）、株式会社大阪シティドームとの間で協定締結																																					
その他	出典：大阪市 HP																																					

津波からの避難施設の事例【避難ビル】

施設の概要			
【必須条件】			
<ul style="list-style-type: none"> ・昭和 56 年に施行された新耐震基準を満たしている建物 ・鉄筋コンクリート造り等の建物 ・3 階建て以上の建物 			
所在地	尼崎市水明町 199 番地の 1		
名称	尼崎市モーターボート競走場		
種別	既設変更指定(平成 23 年 12 月)	構造	
所有者		耐震性	
階数	地上 7 階 (推定)	用途	競艇場
整備・計画地域の概況			
避難可能人数	約 5,800 人		
使用可能場所	メインスタンド (新館) 3・5・7 階部分		
使用条件	<p>【津波時一時避難場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校等の「指定避難所」と異なり、津波警報等（洪水の場合の避難勧告及び避難指示を含む）が発令されたときから解除されるまでの間、命を守るため一時的に避難する場所。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 津波警報等が解除されたときには、速やかに退去する。 2. あくまでも一時的な避難場所であり、水・食料の提供は想定していない。 		
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 19 年 6 月に「津波等一時避難場所」に指定（阪神電車・尼崎センタープール前駅と競艇場正面を結ぶ長さ 200 メートルの屋根付き歩道橋「ファンロード」と管理事務所がある競艇場 9 号館 2 階デッキの 2 ヶ所、約 800 人） ・県の暫定津波被害想定に基づき、ファン通路、9 号館 2 階デッキを指定廃止し、新たにメインスタンドを指定。 		
概観等			
管理主体・管理方法等			
管理主体			
管理方法等	尼崎市による指定・協定締結		
その他	出典：尼崎市 HP		

津波からの避難施設の事例【津波避難広場】

設置場所	和歌山県 田辺市 新庄町
施設区分	避難広場（高台等への避難路含む）
名称	橋谷避難広場
施設概要	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: flex-start;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%;"> <div style="width: 60%;">  </div> <div style="width: 35%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>面積 2,500㎡ 高さ 標高20m 収容人数 約1,000人 (橋谷地区人口の9割) 建設費 21,299万円 工事期間 H16年度～H19年度</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>橋谷地区からの避難路3本、国道42号線と避難広場を繋ぐ避難路1本、合計4本の避難路を設置</p> </div> </div> <div style="width: 45%;">  <p style="text-align: center;">所在地</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; width: 100%; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;">  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>各避難路に、ソーラー電池式の避難誘導灯が合計8基、避難広場に広場照明灯が7基設置されており、夜間になると自動的に点灯する</p> </div> </div> <div style="width: 45%;"></div> </div> </div> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">写真他、情報源：田辺市 HP</p>
整備地域の概況	<p>田辺市は、昭和21年12月21日に発生した昭和南海地震に伴う津波の来襲により大きな被害を受けた経緯があり、特に、旧新庄村（現在の田辺市新庄町）ではその被害が甚大であった。新庄町橋谷地区は、田辺市の南西部に位置し、田辺湾の奥まった海岸線沿いの地域である。記録では橋谷地区の津波最高水位は、地上3メートルにも及んだと記されている。こうしたなか、田辺市では、近い将来、懸念されている南海地震が発生した場合の津波に備え、橋谷地区の住民が安全な高台に迅速に避難できるように平成20年3月に緊急一時避難場所として広場を整備した。</p> <p style="text-align: right;">情報源：田辺市 HP</p>
管理主体	和歌山県 田辺市 防災対策課、都市整備課
管理方法	

津波からの避難施設の事例【津波避難路】

設置場所	和歌山県東牟婁郡串本町有田地区
施設区分	津波避難路
名称	手作り避難路
施設概要	   <p>木製の階段など地域住民らが整備した避難路。標高 20～50m の高台に向かってつづら折りの道が続く。</p> <p>2013年7月26日 日建連撮影</p>
整備地域の概況	<p>有田地区では、自治体により整備されたとされる擁壁上部への避難階段に加えて、さらに上方へ避難するための「手作りの避難路」が地元の自主防災組織によって設置された。「手作りの避難路」は、木製通路から丸太階段へと続いて整備されており、ソーラー式の誘導灯も設置されていた。</p> <p>地元の老女が、昭和南海道地震津波（1946年12月21日）の時には畑に魚がはねていたと、当時の様子を語ってくれた。過疎化の中、津波経験者が残されおり、「手作りの避難路」には南海トラフの巨大地震に対する切実な危機感が感じられた。</p>
管理主体	串本町有田地区自主防災組織
管理方法	

津波からの避難施設の事例【津波避難路】

設置場所	和歌山県西牟婁郡白浜町瀬戸地区
施設区分	津波避難路
名称	津波避難路
施設概要	 <p style="text-align: right;">写真：2013年7月25日 日建連撮影</p>
整備地域の概況	<p>和歌山県白浜町瀬戸の瀬戸4丁目町内会（約120世帯）に、セメントで舗装した延長約150mの津波避難路が完成した。標高4mの所から近くの山に造った一時避難場所（標高17m）まで一気に駆け上がることができる。</p> <p>避難路のうち町道から避難場所登り口までの進入路約100mは、地元に住む地権者の田井善治さん（78）が私財を投じて整備した。軽四車両が通れる。残りの約50mは町から50万円の補助を受け、地域団体の支援と町内会住民の負担で造った。勾配の急な箇所には手すりを設けた。</p> <p>同町内会では2007年に自主防災組織を発足させ、津波襲来時には、江津良浜に近い住民は住宅街がある近くの高台に避難することになっている。しかし、浜から西側の約40世帯は高台から遠いため、田井さんらが避難路を整備した。</p> <p>山口町内会長は「完成した避難路は集落から避難場所へ最短で逃げられる。以前は竹や雑木が密生し、住民の手作業ではとても整備できないと半ば諦めていた」と田井さんの善意に感謝している。避難場所は頂上付近にあり数十人が避難できる。</p> <p>町では自主防災組織や町内会、区の要請に応え、地域が自主的に避難路を造る際に上限50万円か事業費の70%を支援している。町防災対策室によると11、12年度で15カ所の避難路が整備された。</p>
管理主体	白浜町、同町内会
管理方法	
出典等	紀伊民報ニュースサイト AGARA（2012年11月27日）

津波からの避難施設の事例【津波避難路】

設置場所	和歌山県新宮市清水元
施設区分	津波避難路
名 称	津波避難ビル屋外階段
施設概要	
整備地域の概況	<p>新宮市は2日、財務省近畿財務局と災害時応援協定を結んだ。市内で大規模災害が発生した際、局職員が支援物資の受け付けや避難施設の運営、罹災証明書の発行などに協力するもので、県下初。全国では大阪府堺市に次いで2番目の締結。田岡実千年市長と池田篤彦局長が市役所で協定書にサインした。</p> <p>市は財務局と昨年11月16日、市内清水元の国家公務員宿舎「新宮合同宿舎」を津波避難ビルに指定する協定を結んでいる。宿舎は、鉄筋コンクリート5階建てで、1号棟は1987年、隣の2号棟は2003年に完成。3階部分が海拔11m、屋上部分は海拔19m。</p> <p>財務局は屋外から屋上へ上がる階段の設置工事を進めていたが、このほど完成した。今回の工事で、収容可能人数が163人から725人と大幅に増加した。大きな揺れにも耐えられるよう地下16mまで杭を打ち込んで建設。有事には扉を壊して階段に入ることができる。屋上には防寒シート、簡易トイレなどを入れた収納箱を4個設置している。屋上への手すり設置費を含め事業費は3500万円。</p>
管理主体	
管理方法	
出典等	熊野新聞社 LOCO NET (2013年04月03日)

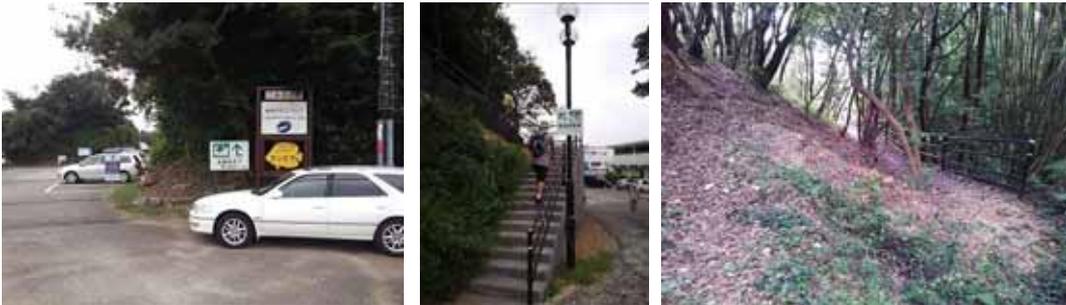
津波からの避難施設の事例【津波避難路】

設置場所	幡多郡黒潮町佐賀（87k985 付近）
施設区分	津波避難路
名称	緊急避難路
施設概要	 <p>■位置図</p>  <p>■整備状況</p> 
整備地域の概況	津波による浸水が想定される区間の国道で、山側法面等の道路点検用通路を改良し、津波等発生時に道路利用者や沿道住民が高台への緊急避難路として利用できるよう整備した。
管理主体	国土交通省 四国地方整備局 中村河川国道事務所
管理方法	
出典等	国土交通省 四国地方整備局 中村河川国道事務所 HP（記者発表資料より）

津波からの避難施設の事例【津波避難路】

設置場所	四万十市坂本（113k960 付近）
施設区分	津波避難路
名称	緊急避難路
施設概要	<p>■位置図</p> <p>■整備状況</p> <p>至 四万十市街</p>
整備地域の概況	津波による浸水が想定される区間の国道で、山側法面等の道路点検用通路を改良し、津波等発生時に道路利用者や沿岸住民が高台への緊急避難路として利用できるよう整備した。
管理主体	国土交通省 四国地方整備局 中村河川国道事務所
管理方法	
出典等	国土交通省 四国地方整備局 中村河川国道事務所 HP（記者発表資料より）

津波からの避難施設の事例【津波避難路】

設置場所	和歌山県串本町有田
施設区分	津波避難路
名称	串本海中公園避難路
施設概要	<p>串本海中公園では津波災害に備え、園内に避難路を設けております。</p> <p>避難先の高台は標高海拔32メートルの高さにあり、最大18メートルとも予想される津波災害に対しての安全確保を想定しております。</p> <p>災害発生時には館内アナウンスおよび当園スタッフの指示に従って避難していただきます。</p> <p>●避難路の場所</p>  <p>(串本海中公園 HP より)</p>  <p>写真：2013年7月26日 日建連撮影</p>
整備地域の概況	<p>和歌山県串本町は津波発生時に観光客の安全を確保するため、同町有田の串本海中公園センターと同町檜野の檜野釣公園センターから高台への避難路を整備した。2カ所とも海に近い低地にあるが、避難路を使って標高24メートル以上の山に避難することができる。</p> <p>町が2012年度の事業で整備した。避難路の建設事業費は串本海中公園が342万円、檜野釣公園が243万円。</p> <p>串本海中公園の避難路は国道42号沿いの山に通じる。標高25メートル地点まで階段や手すりを設置している。同センターの水族館やダイビングパークの年間利用者は約20万人。同センター水族館の宇井晋介館長は「防災の取り組みが充実すれば観光のPRにもなる」と話す。</p>
管理主体	
管理方法	
出典等	紀伊民報ニュースサイト AGARA (2013年04月19日)

津波からの避難施設の事例【津波避難路】

設置場所	高知県黒潮町
施設区分	津波避難路
名称	佐賀保育所裏山
施設概要	<p>裏山への避難路と避難場所</p>    <p>避難場所は 避難路 佐賀小学校</p> <p>避難路は急峻な山道</p> <p>写真は H25. 11. 27 日建連撮影</p>
整備地域の概況	<p>佐賀保育所（佐賀小学校）裏山は、小学校・中学校などのすぐ裏にある津波避難場所である。ここは、学校のすぐ裏ということで、日中は多数の避難者が避難してくることも考えられるが、尾根伝いにさらに別の場所へも繋がっていることなどからも十分な収容スペースを有している。斜路終点である避難場所は標高 70m の広場であり、そこには防災備蓄倉庫が設置され、比較的大人数が収容できる広さを持っている。</p>
管理主体	黒潮町
管理方法	

津波からの避難施設の事例【津波避難路】

設置場所	高知県黒潮町
施設区分	津波避難路
名称	観音堂避難路
施設概要	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>避難路入口全景</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>照度センサーライト</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>蓄光材</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>写真は H25. 11. 27 日建連撮影</p> </div> </div>
整備地域の概況	<p>観音堂は漁港に近く、標高 30m 近い丘の上にある。そこへは急な階段を上っていくことになるが、その階段には蓄光材が階段各段と手摺に、曲がり角部には照度センサーライトが設置され、夜間でも安全に昇降できるようになっている。階段の通路幅は、上部で 1.8m、下部で 2.0m となっており、高齢者や子供などの手を引いての昇降も可能となっている。この通路幅に対し、当初は中央に手摺を設置する計画があったが、体の不自由な人のかついで上ることも想定し、中央の手摺設置は見送られている。</p> <p>この避難路では、平成 25 年 4 月 20 日に、夜間の津波襲来を想定し、「暗闇時高台避難の誘導に関する実験」が行われ、土木学会が中心となって夜間の階段昇降と必要な設備の確認を行うこととなった。</p>
管理主体	黒潮町
管理方法	

津波からの避難施設の事例【津波避難路】

設置場所	徳島県 海部郡 海陽町		
施設区分	津波避難路		
名称	妙見山津波避難路		
施設概要	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>妙見山公園入口</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>妙見山公園</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>妙見山公園</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>明現神社</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>明現神社</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>所在地</p> </div> </div> <p style="text-align: right; font-size: small;">出典：消防防災博物館、調べる、防災まちづくり、妙見山津波避難路、 (web 開設・運営、一般財団法人消防科学総合センター)</p>		
整備地域の概況	<p>海部町（現在の海陽町）は、1946年の南海地震で津波被害を受け、津波防災に対する住民の意識は高い。また、沿岸の集落である奥浦地区の中央には、標高30mの妙見山があり、裾野から山頂の明現神社まで伸びる遊歩道は、公園となっている。花見の季節には訪問者も多い。そこで、その知名度の高い遊歩道に無停電照明装置を設置するなどして、高台への避難路として整備することで周知を徹底した。整備のポイントとしては、公園の美観を損なわない施設づくりに注意した。</p> <p>平成9年度事業、事業費約1,400万円、避難路延長：120m</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">出典：消防防災博物館、調べる、防災まちづくり、妙見山津波避難路、 (web 開設・運営、一般財団法人消防科学総合センター)</p>		
管理主体	海陽町		
管理方法			

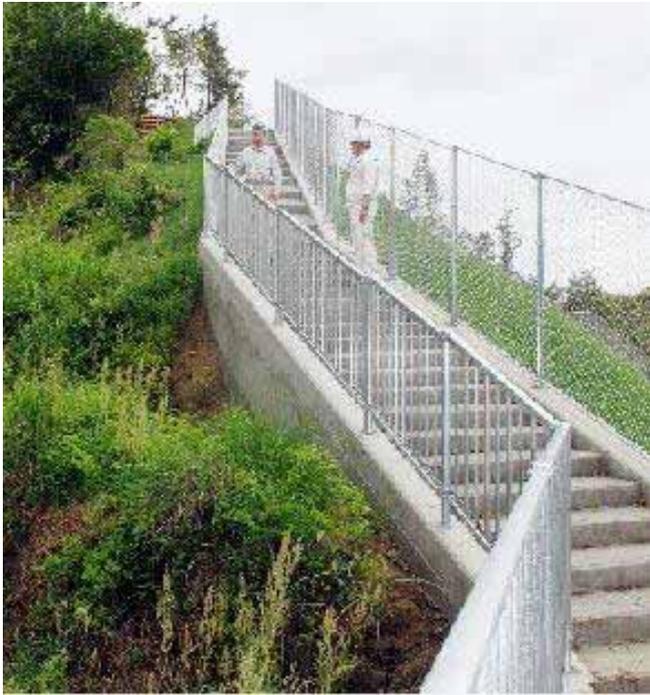
津波からの避難施設の事例【津波避難路】

設置場所	和歌山県 串本町
施設区分	津波避難路
名称	大水崎地区津波災害避難路
施設概要	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>避難路全景</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>所在地</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>手前の部分は住民整備、 奥のコンクリート部分は町が整備</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>避難路看板 奥のゲートが避難路入口</p> </div> </div> <p style="text-align: center; font-size: small; margin-top: 10px;">出典：消防防災博物館、調べる、防災まちづくり、【総務大臣賞】自主防災組織による避難路建設 (web 開設・運営、一般財団法人消防科学総合センター)</p>
整備地域の概況	<p>串本町は南海地震が発生すれば5分～10分で津波が来襲する。その中でも、大水崎地区はそのほとんどが海拔3メートル以下の土地であるため、町内で津波被害が最も心配される地域である。自主防災組織が2年をかけて、海拔約10メートルの高台まで速やかに避難できる避難路を完成（平成11、12年）させ、さらに高台へと避難できる避難路を町が整備（平成14年）した。これにより、海拔37メートルの地点にある指定避難場所（総合運動公園）まで約15分かかっていた時間が、約5分に短縮された。また、夜間でも避難しやすいように、避難路沿いに停電しても2時間は電気がついて足元を照らす蓄電池式の非常灯が5基整備（平成15年）されている。</p> <p style="text-align: center; font-size: small; margin-top: 10px;">出典：消防防災博物館、調べる、防災まちづくり、【総務大臣賞】自主防災組織による避難路建設 (web 開設・運営、一般財団法人消防科学総合センター)</p>
管理主体	串本町、大水崎区
管理方法	避難路建設後は、年間に3～4回自主防災組織が草刈、点検等を行って、いつでも避難しやすいように維持管理を行っている。

津波からの避難施設の事例【津波避難路】

設置場所	和歌山県 和歌山市 磯の浦地区
施設区分	津波避難路
名称	津波避難路、津波避難場所
施設概要	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>津波避難路整備前</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>津波避難路整備後</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>避難場所整備前</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>避難場所整備後</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>案内板</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>所在地</p> </div> </div> <p style="text-align: right; font-size: small;">出典：消防防災博物館、調べる、防災まちづくり、 【消防庁長官賞】津波から住民と観光客を守ろう～避難への道しるべ～ (web開設・運営、一般財団法人消防科学総合センター)</p>
整備地域の概況	<p>和歌山市の北西に位置する磯の浦地区は、1日最大3万人以上の方が訪れる海水浴場に隣接し、背後地は山という地形である。東南海・南海地震による津波避難については、山はあっても通路と広場がない状況であった。そこで、自治会では、利用されていない荒れ果てた里道（山道）を整備し、草木が覆い茂った山腹を避難場所に整備することとした。具体的には、草木の除去は住民が行い、整地、舗装、防災倉庫の建設は自治会の積立金で専門業者へ依頼した。その結果、海拔約20mの地点に約300m²の避難場所と全長120mの避難路が整備された。また、海水浴客が避難しやすいように、路地の曲がり角には案内板を設置した。今後の課題として、要援護者の支援や夜間の避難に取り組んでいく。このような取り組みを平成14年度から実施している。</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">出典：消防防災博物館、調べる、防災まちづくり、 【消防庁長官賞】津波から住民と観光客を守ろう～避難への道しるべ～ (web開設・運営、一般財団法人消防科学総合センター)</p>
管理主体	磯の浦自治会
管理方法	

津波からの避難施設の事例【津波避難路】

設置場所	和歌山県田辺市芳養町井原地区
施設区分	津波避難路
名 称	津波避難路
施設概要	 <p>田辺西バイパスの整備に合わせ、バイパスのり面に津波避難路を整備。避難路の最上部は標高 40m。階段は東西両側にあり、延長は東側で 44 メートル、西側は 31 メートル。設置費用は 350 万円。頂上部には、町内会が広場（約 100 平方メートル）も整備した。</p>
整備地域の概況	<p>市の沿岸部には高さ 12 メートルの津波が想定されている。</p> <p>「のり面に階段を設置し、裏山への避難路を整備してほしい」という地元の要望を受け、避難路を整備した。</p>
管理主体	国土交通省 近畿地方整備局 紀南河川国道事務所
管理方法	
出典等	紀伊民報ニュースサイト AGARA（2012 年 05 月 02 日）

津波からの避難施設の事例【津波避難路】

設置場所	和歌山県白浜町細野地区
施設区分	津波避難路
名 称	津波避難路
施設概要	 <p>写真：2013年7月25日 日建連撮影</p> <p>県と町が山の所有者の協力を得て、平地がある頂上（標高 23m）までの約 85m の山道をコンクリートで舗装し手すりを設置した。 事業費は約 400 万円。</p>
整備地域の概況	
管理主体	和歌山県白浜町
管理方法	
出典等	紀伊民報ニュースサイト AGARA（2010年04月09日）

